

関東ふれあいの道を歩く (16) 神奈川 (⑩大山参り 叢毛のみち)

2019年11月25日 池内淑皓

2019年10月20日(曇り)、10月は台風が3回も来て、関東ふれあいの道もなかなか歩けなくて閉口したが、今日やっと雲が切れたので晴天を待ちきれず、神奈川コース最後のふれあいの道を歩いた。

このコースは、古くから大山詣の参詣道で、関東ふれあいの道全144コース中十指に入る優れたコースだと云う。この道は若い時からいつも歩いている「みち」であるが、いつ歩いても楽しい。



(⑩大山参り 叢毛のみち) 概念図

(首都圏自然歩道連絡協議会)



叢毛バス停から日向薬師バス停まで 8.7 km (3時間30分) 行程図 (公称)



今日の鉄道最寄り駅は 小田急線「秦野」駅



箕毛バス停。秦野駅から箕毛行のバスは、一時間に二本の出発であるから便利。



江戸時代からの道を辿ろう、宝蓮寺大日堂の山門を通り、大日堂へ参拝。



境内の茶湯殿を通り抜け、川沿いに歩くと



橋を渡るのだが、台風の影響で水嵩が増し、対岸への渡渉不可で出発点まで戻る。



常夜灯前で阿夫利神社への道と（右）、ヤビツ峠、札掛への道（左）を分ける。
常夜灯は、文化元年甲申年六月（1804）と読める、215年も前に建てられて、今なお現役だ。



初めのうちは里山気分で、笹藪の中を行くが



いくつか林道を横切り、尾根に取りつくと、急登が待っている



ひと頑張りで尾根上に出ると、道は大山の山腹を巻くように歩く。傍らに 100 回登山記念碑が建つ、ものすごい猛者が居たもんだ。



「箕毛越」小一時間程辛抱すれば、大山から派生する浅間尾根の箕毛越（峠）に着く。ベンチがあるから一息入れる。吹き抜ける風が心地良い。



箕毛越からは、緩やかな巻き道が阿夫利神社へと案内してくれる、里程標もある



途中一か所鎖場がある、台風の影響で取り付け部分が崩れているが、慎重に渡れば大丈夫。



かごや道を分ける。この道は江戸時代籠に乗る人の為の登山道で、救急車の役割も果たしていたに違いない。



「大山登拝口」頂上へはこの門を潜る。扉の鍵は江戸日本橋小伝馬町の「お花講」の人達が管理している。毎年7月27日の山開きには彼らが両扉を開ける、このしきたりは元禄以前から連綿と続いていると言う。



今日も講を組んだ人が参詣しているが、皆後期高齢者だね。



「阿夫利神社」祭神：大山祇神、大雷神 高麗神（たかおかみのかみ）
天平勝宝七年（756）東大寺別当良弁が開山、相模の山岳信仰の中心道場となった。



私もお参りして記念に一枚



本殿の中に入ると大山名水が湧いている、給水して行こう。延命水として購入すれば、200円で販売している



さらに本殿の奥に進むと、納（おさめ）の木太刀が奉納されている、天明五年（1785）と読める。源頼朝が佩刀を社殿に収め天下泰平、武運長久を祈願したのが始まりで、この習わしが庶民の間に風習となって広まり、招福除災の祈願として木太刀を納める様になった。帰路は代わりの小さな木太刀を頂く



境内には今もって昔ながらの茶店が並ぶ、私もお団子を一つ購入（350円）



「二重の滝と二重社」台風の影響で水嵩が増し、初めて二重の滝が見られた。社は高雷神が祀られている。



見晴らしに行く途中大杉に出会う、樹齢不明



「見晴台」糞毛から歩き始めて2時間45分程、11時に到着。ここで大山を見ながら昼食。



午後は大山から派生する雷尾根を下る。



「勝五郎地蔵」 ここまでは緩やかな草原状の尾根を歩くが、ここから一転九十九曲がりのジグザグ道を下る。



膝が痛くなる頃「日向ふれあい学習センター」前の林道に到着、膝が痛い、ひと呼吸入れる。



この道も日向薬師、七沢から通う大山道であるから、江戸時代の道標が道の傍らにある。大山、不動滝本尊、明和元年（1764）六月 志主村と彫ってある。



「浄発願寺・奥の院」 本寺はここから1km下流にある。正面の宝篋印塔は、元禄5年(1692)名古屋城主徳川綱誠の正室宝珠院殿を弔うために建立されたが、山津波のために壊滅した。



「石雲寺」雨降山曹洞宗。 壬申の乱で敗れた大友皇子が日向の地に隠れ住み、没後皇子の菩提を弔う為に養老二年(718)華嚴法師が創建したと伝える。



「伝大友皇子の陵」父天智天皇が没すると、大海人皇子と大友皇子が皇位を巡って争う(壬申の乱)(672)大海人皇子(天武天皇)が勝ち政権を握る、大友皇子は自殺。ここに祀られている石塔は、鎌倉から室町時代の初めに造られたと考えられている。(明治3年になって弘文天皇と追号された、即位したかどうかは不明)



弘文天皇陵（大友皇子の墓）宮内庁管理。この墓は大津市役所裏にある（2017年12月筆者撮影）



「浄光願寺」慶長13年（1608）弾誓上人の開山で、天台宗
江戸時代に繁盛し、「男の駆け込み寺」とも云われた。昭和13年の山津波で全壊しここに移された。



日向薬師バス停前ゴール。13時20分到着。太陽は顔を出さなかったが、秋らしい爽やかな気候であった。

[参考タイム] 秦野駅（7：50）→箕毛バス停（8：15 ロスタイム15分）→箕毛越（9：25-9：30）→阿夫利神社（10：05-10：15）→見晴し（10：55-11：30 昼）→勝五郎地蔵→日向ふれあい学習センター

(12 : 30-12 : 35) →伝大友皇子の墓→日向薬師バス停 (13 : 30 着・バス発 13 : 35)

2万歩 14.3 k mであった

この項完

関東ふれあいの道 17 神奈川 (⑰北条武田合戦場のみち) 神奈川県最終回に続く